

関連項目：教育活動プラン③

縦割り班を生かした仲間づくり

目的

本校の児童は、1学年 1~4 人と大変少なく、クラス内での友だちとのかかわり方が固定化してしまう傾向が見られます。そこで、できるだけたくさんの友だちとのかかわらせることで、人とのよりよきかかわり方を身に付けさせようと考えました。

内容

● 縦割り班づくり

4月当初に全校生を2つに分け、それぞれ自分たちの班の名前を決めさせました。班員全員で話し合っ、班の名前に思いを込めたアクロスティックづくりをしました。また、班員の似顔絵の入った班旗を作成し、班の一員であるという自覚を持たせました。

● 全校集団宿泊学習

全校生での屋島集団宿泊学習では、すべての活動において縦割り班で取り組みました。スタントに向けて数週間前から班ごとに集まり、台本から演出まで子どもたちが話し合ったあと、昼休みや放課後に練習をしました。いかだ作りやフライングディスク、食事の用意など活動の時には、上級生の頑張りを教師が賞賛し、上級生のアドバイスに素直な態度の下級生も認め、お互いによいかかわりであることを意識させました。

● 運動会での取り組み

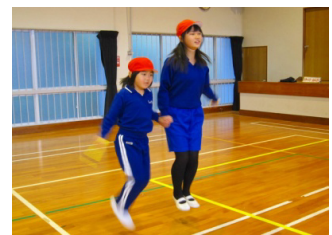
児童会種目は、2つの班による対抗戦とし、3週間前から班ごとに種目練習を行いました。種目を工夫し、必ず話し合いをしてから選手決めをするようにしました。個々の走力や得意、不得意を考えた話し合いが行われました。

● 体育学習での縦割り活動

昨年度は個人対抗であったなわとび大会を縦割り班対抗に変えて取り組みました。運動会同様に種目を工夫し、班員全員の話し合いによって出場する種目や選手決めを行いました。2人による合計回数や2人組による跳び方、大縄跳びの競争などの種目を多く取り入れました。

● 様々な場面での縦割り活動

大きな活動だけでなく校内の諸活動において縦割り班を活用することが多くありました。その都度決めることについては話し合いをさせ、相手にわかるようにする話し方、聞き方など学年の違う相手とのかかわり方を考えさせました。



成果

1年間を通して、縦割り班を中心にした活動を続けることで、子どもたちは相手のことをより考えてかかわることができるようになりました。特に今年から上学年になった4年生や5年生の態度が少しずつ変わってきました。自分たちのことだけでなく、周りの学年のことでも考えた話し合いができるようになりました。それは、できるだけ子どもたちの話し合いの時間を確保し、自分たちのことは自分たちで決めるんだという意識を持たせてきたことが影響していると思います。

また、1つのことにみんなで力を合わせて取り組んでいく中で、自然と励ましたりアドバイスしたりできるようになったことは、よいかかわりができている証だと考えています。さらに、教師の賞賛や認める機会が多くできたことが、子どもたちがみんなと安心して活動できる基礎となったとも思っています。